

Diary

1923.

大正十二年

(一)



Diary.

1923

(大正 + = $\frac{1}{4}$)

Iwasaburo Tanabe,

一月

1. (月)

大公保二百十一高地、モニ第一回、美心の恐ろしき
貴様、計画、母上事やり一帯生ナトニ人ニテ
水入る。是れ、口吹き、春、七八、天井、白石カナルト
其心地ニ立玉意ナリ

前十峰半、吸云ナガハ取カ貴様、計画、貴様
ナ足音ツベツカ掛、歌音室、上、江金計、故
入、歌歌ツヰ、田元ス

2. (火)

朝山生二人ナ伴ニモモ浴川、11.31是
午車、モニ此常、漫到七日、小山田豊史、上田貢治
即充、七日、カラナリ以二等半、吸ナ四車毛
=入

金食人アトタケツナ、ナ食人、人ト尚易食事
33年、社人、可賀状、思ナトニラ、モナリス

—

11

3. (火)

午賀状、退メ又竹中ヲ賣ム
高田博志史の研究計、資産整理方針(向澤ア達)
車八一達、上野構、吉田事、チヌトス
朝ノハレ、宣傳八甲子すニヨリ仕事ニセシナテ退ス

4. (木)

1. 委嘱代理事務所(北川)二月、民進主計正財政・薦演連
記、税金部、税金部に於ける連絡ス

5. (金)

Zigek, Grundriss der S. 3賣ム
西勢院リメ、昭和夏、計画室八海、連記
校正ス
手紙、退ク

—

12

6. (土)

Zigek 午賣ム
手紙、退ク、高田博志史、八木博史、外電アマ代
稿ス

朝ノ紅茶、ハレ、宣傳、「甲子」の仕事セシム午後ノ
大城ト青山園、一向散歩、運営快晴大方元氣
四撲ス

7. (日)

Zigek 午賣ム
西勢院、仕事人ト共ニ考キ 12.52 番ニ
ナコモラカゲ、沿川、ナキ替、四時、吹ノヨリ又
リナム鉄丸未訪、ナロタガミ下段ニル。

8. (月)

朝大時考キ 大連陸海空部機車部事務室、行
食料入社希望券、面会、来週月水火、2回備考以
レセヤリ、橋工、地盤、立川市、原発公氏、中通一;
政治主研会室、十郎内史、治、不在丁度、二門前、
今氣、山内ヲ散歩、運営生作丸集及、模擬ラジム

一月

向東京駆來、陸道、太攀ト往ル。二十日行ク。今後
中央大本、佐藤正之亮、行。旅行中、ノゾミ在丁度生
食。天野達也君、娘。佐藤亮一、平成十八年九月
廿二日出候。此二日、
正午、坂内裕吉先生。湯村二十四男東行
遇。保健課、会員小委員会、模様。中止、
更、二月四日、事務、支那地方。在丁度次
達人。近々、夏支トヤシ。敵、是れ許スルトム
アリ。出来ル事、其ノ事、正午、呉中寺
陽城史一氏、皆トテラ。佐藤西生、望ル。元、向
南東北相模にカツニ立。能作一時病
院、人、台食。數歩、トヨモト。有明河
町、先取、佐々木、
佐々木、

9. (火)

✓ 朝、横田支本、今銀資料、付。中切換。付
銀、内閣立憲、外政局、御内閣。付。之、
方局、今銀、社会事務、今銀、内閣、付。之、
付。佐々木、
佐々木、

Zigoku、達

今四時過事ト共、之を先づ銀台書、改め、
改め

一月

→ 27. 1月23日、示。三月4日、公入、銀元、
銀元、

10. (水)

午前、和歌山高等商業学校長岡、寺一郎君、
行。河野太一郎史、付。腹瀧、十日見、御内閣、全人民、
計、考。人情上、エマメ、不愉快、八感、元、
ハサウエ、ヨーロッパ、
✓ 北日本及、銀銀行、盡、即、至生、金木、
行。内閣、付。ガス、
郵局、處理。夕方、時過去。7.30 東京駅、
次、ナガ、森、入、東京駅、通過、裏、走り、
走り、

11. (木)

朝 8.30 大政奉行所、行
✓ 東京事務叶、銀、決算、十二月、全金、草津丸
、度、決済、
今銀、状、送礼、辰川、云、助、七、銀、
今銀、事務、支帳、内閣、
神田、支帳、内閣、

— 33

今月主玩隻送別会、佐々木コトヲ相続又
皆健力ニ體、御腹方傳、抱田東、一之助、叶、社会
事業ニ體、足代人集人、少の内ト始て也、少ナリ、
社会事業ニ體、本多人共行也、未今分人大
林史工類、心野高田丸、北山御賓、町人、叶

山村老泪圆而大孝，方决定，昌黎。

八木久虎一、佐藤重四、山本一、佐藤也八、吉川

西北方上相模弘致山高商不成功，場合以
吉仁上京由邊吏。而今也ルヘキナハ心掛ツテ
リト甚々

次二時，吸盡用鹽充大半份，喜鵲細嚼食，掌內一、二圓而大半軟，事未下時一小兒夢得二丸，因道升凡，吸肉，掌內之三時，頃辭世。

大原洋(市長)監事トニテ 柿原政一郎
丸、蓬之、井、重徳、伊藤リハ、高報、城サ一
依、理事監事、府院、向井千虎、アヌトム

— 11 —

一一

今月主税隻送別会、佐々木ト相談又
音便力会館、御殿方傳、桂園東、一社取引、社会
事務会館上、工作人集会→内閣ト協定也→
社会事務会館、本會、銀行又來會分大
林支下額、心物高田丸、北、配處、町八、二十

山村虎之國西大幸、方次定、旨、^ノノ

八木久虎、佐藤吉四、左近、依頼、旨、^ノノ

河西虎ト相談弘致山高商不成功、場合以
古井上京田辺虎、西脇也九郎→中川心掛、
久虎、旨、^ノノ

元二時、喫茶田越元太未訪、喜島、御馬鹿、掌
内→國西大幸軒事未下作一小兒夢、省二太
田道九郎、所内、室内二三時、頃、辞去

大臣洋、御殿方傳事ト、本部取引一
丸、達之心事、至、落得、得九郎、報心被九
郎、理事監事、府内、如九郎、平虎、广安、
广安

一一

18. (木)

✓ 朝鮮の歴史・文化、民衆の生活と气候、14/2/3報じ
向支報略 1月の史、意次郎門下院女房立上井一
引人・立人・高田史・大、本件・松江・立井・元川史・
二・朝鮮の事例、中井川・又河内史、元立
井・大庭文・井・立人・報

食糧 大原几平二丸連名の而氣至生人
人・中四名(高田又三郎、立井一人、岸田)情次郎、
立井(立人)、連接立人四名・十二口大政
・中井・而氣サクシ田核整・適宜改定支
給サクシト報

前 11 - 12. 12 球理

帰先達医芳・行

山岸元次郎史の二十二口作行(中二史)共
・本件、中井・立井・中井・立井・中井・立井・
立井

朝鮮の歴史・文化、民衆の生活と气候、14/2/3報じ
向支報略 1月の史、意次郎門下院女房立上井一
引人・立人・高田史・大、本件・松江・立井・元川史・
二・朝鮮の事例、中井川・又河内史、元立
井・大庭文・井・立人・報

一 月

19. (金)

午前十時，復之矣，先以設計局・河部事務局、
及中央設計委員會委員會主任・中古ノ内閣ノ是
狀稿(三)外望ルハ双行ノ事處又ル計上ニテ云々、
小糸沒有二處：一寸面傳ニ

次：午後一時，以行政執事科・農田部大臣
吏・行計局副官長等三位・中古ノ全般
ト相付スヘシト、既事ナリ

ソーリ日幸便望部：既云貴郎東方行計局
議往中古ノ全般付サトヲ重視カレ甚以策

備セシムナリ

設計局全行計議往中古ノ事處ニテ
テクル迄ノ傳ニ

カタツムリ氣ニ

半日四時二十回太原代：大改ノ面會アリ
一ノ午後十時以降連絡ノ事又ナリ

十山健男大内少佐、四時一回ノ入換ノ取
計ハシモ松本訓善吉(生)ニテノ事ヨリ一ノカ報セ
ル事ニス

一 月

20. (土)

先日左元 Ziggy ト傳：又「ツツ」故枝川清久
午前由近忠男東河西大一郎東來行立教大卒一
行ナ保田執政ニ而アリル帰途ナリ天晴向、松
井、既久山尚士の内、收入アルマテアカエヘリナリ
田近忠、李先、子全之年譜改、万トツナ子合ニ、
約又益食ノ其ニ既存ニ 西河西、奉少卿改、
由ナリ

御葉師範、桂氏塔年次節度、支度、一郎大卒
ナリ既處、依頼ニ

21. (日)

午前十時過山青先作河津、三支前以心ヲ來行遇
ル、經濟主郎級枝川、桂率一郎・全、既善了成ナル
全ノ既見ノ時、桂葉亭事外ナリナラ、ナニニ
乙處行向、甲向、既行時ノ事矣十一時、既亭
事ナリ

午後河部事務局、桂介・テ加藤美一郎内來行
高西、高書整理外ナリハ入所ニテナ希望ナリテ
リ、全ノ大体一九三〇年四月十日事處スヘキ
旨告ヘシ

— 11

午后平車、人、午後士+八傳田仙造史
 来訪者上、書物、是乃而ル、皆、氣使
 仁四時之氣成草稿にて、今晴二行、江東枝
 友氣輪事變方今ナ、此竹薄田竹内ニ史始ト
 十一父ト、今氣、午一回枝友今ト、引ナ、
 改ムコトト往ニタ、又今青綠今ハ我ハ
 留任シテ乞スヘク中合、一全ハ主回犯
 気ナ枝トア、氣既、事往ト申セタルトナ
 八時散氣
 「アラ、散換」後

22.(月)

天ノ火ト、清、講義半叶
 仁3-5 大卒講義
 ✓ 小平長郎史來訪、本日前上車、山林輝吹中央
 七面今ナル由、此里入林丸、東車方面、全3-1
 希望ナル、山林丸、大卒部、清立、立、外、高士、行處所
 ナ、講義ナリマラ、往アリ、全ハ河上史、意見中間の研磨ナ
 ハ、多ヘタル上、新震スヘク、若ヘオク、大時事研究

— 12

23.(火)

✓ 午前大島高知史來訪、豪雨急設壁袋計夏更、而油
 ハルナリナ、水モ史、而油、未固、後2ト、付若
 人、向歎、室ズル、ナシ部持氣サル、其吸易補助、
 河崎、ハニ清求ル、アラ、アラ、春代史、ハーフト、而又
 正午、在東車駅、行、麻衣素ノ基ヒン、大卒
 ト、士卒講義
 講義室、東車駅社会室、室瓦、先頭大御守
 順計、室ズル、壁向、瓦、
 傑毛屋屋主一行ナ、八時後、油、二階堂史
 来訪中、花火代持唐瓶、其、ナシ持氣サル、蓬
 社、内久、放計、帰氣、コトナ、往ニタ、
 Jizuk、後

X=為心の事、希望、元々二十回ナ、支度の事も兼ね
 諸國風俗取扱、乞、音討、トナス

24.(水)

前講義半節
 仁3-2、經理科高生、鳴時財政講義、
 ハニ吹講
 仁3-4/2 大卒
 ハニ吹氣、難易、元心、八時後、9.20 東車
 開業、向、アラ、麻衣、入、

25. (木)

前十一時過太政顧看頃神龜東へ神人行
後叶一丁目：佐立史，友人是立芳支助支，是立史
改神龜室へ宣辰御室へ憲法へ是立史の後又の史
判，支、中野、行子御浦此年は元人房
守へ外廻ソリヤ併見之此前八度過十二度四月及
三月御室支來カ一由加郡内是立史、元人，志立
→中野二賀，中野，ソーリ是立史，友人草代
計四心中野→中野御室二二中野元人，中
野美也，清川，寺家松井区御心役一週向
内、北事入北心，東=電車の因車行十度承
是立史時，是立史八神人全八度改御心

26. (金)

朝十時過十三山健男史行，大人ト共、近藤、旅
足八度廿九地、一二中野行乞行中野御心
心前、旅、之久井北心、赤坂、支、行乞行中野
御心廿九地、北中野行乞行中野御心行
✓ 朝田史の方行銀鑰匙轉，改過御心外，又
社会事半金銀人、資材葱生上，行乞，行乞行中野
行，折左大銀鑰匙現、力丸トスル人行銀鑰匙

✓ 朝田史の大臣民是立西面，荒地，行者御付送
意向，是立ソリナ、本日登記行行十度，實名セ行ル
ソリナ報告ル，向大臣民二十九日，是立史行八日，
故朝田史返日工役、ソリナ行事務合計實封御算，皆
方面，事務，統一所先，告案スル，行者
✓ 朝田梅田二丸，意次ノトサ禁成得，山林九周河而
八木林（林東、欠帶），諸史、生火御行，吉未上、則
乞トヨロキナリ。并：予吉支袋、時御金錢事、行諸丸，
向、行者御心合、希望、御心行、中野御心
舊冲丸本日高下欠勤，由ナ心ケタ行未；一塙持御
是立芳支助（行在候支助二丸、出缺、往支村佐兵
度久）報シコマニ、私了達ノ

27. (土)

✓ 朝高田史本日戰手速，意向トセテ三ヶ月分位、
ナナメテ御期ヒル旨、便、意次支袋中
河而林九周山林八木及、五虎東主相接，結果
トセテ北、同時、既、故御事、待遇、是立御心
而心ト五七月旨、退戻手引トモシヒムシ御轉費、持
鑰匙別、木太丸、北御行、別ル、是立ヒムシトナリ
金八疊、包行、行、早一ツ一ツ日暮、之ト正良、委員

— 11 —

ト相撲の見入へて、牛二郎の説、仕事の純粋化を
向上、開拓するに報酬問題、競争、志意の組合で
不思議なり、是れ個人の、牧場、時期、宣傳費
又河面免許等、地代、而史、單、行風計、把者之心
ト明亡カレ

十一時、改刀高田様田中田大林御内人留向
諸君ト相談。今、莫テ遺ツル白荷、時刻、半レ
ト待つヘンヌ。改、諸君ハ五日目、午リニ過ちナリ二月
(左戦一月)一日トスル迄至、(三)ナム、助テ運ハ二年
・全ナム)ニシテ方ナリトモハ、午後ニ度スルナリトニ正テ
一足、散会

二年食堂、マラカニアン、道別、今、弓、世、前、弓、
玄関前、マリ��輝翠翠、食堂、外、近ツナ
金、今、尚早、道別、薄引走、之、物に九國河西
林山村八木久松田小毛、始見立、植物園
高田丸、一峰寺、喫、金、更、十、今、弓、
町、感歎、食更、支232-

大革命为开二弹一丸未伤身，斗中一
慈悲为怀

二時、飯再び（了）後、諸丸、意見（了）2月25
之方付、2月26一同會（了）後改スル比、宇多
ト御子諸丸ト早々同心意見（了）後、宇多、方
2月26、諸田良守、庄へリ一、諸早、通へス、宇多一也

一月

意見ナニテハ三ヶ月支給に兩本半も消費補助トヨタ
乞、金額ヲカレルヘシ可トス。性心、若夫、ヒラドウニラニエ
月々、文書ヲ送ナリト、事務ナハ五ヶ月支給スルニ至
ナト達ハ、迄、再び、後カスコトニ退済シト所後、
車、即手連、要木、故圓ニ全等、一行スル
申セラル

是～れゝ者史，追尋，木下協議又二ノ月，一
揮、支那に別、獨特夢神皆心ヲ既歎，遠征
亦族至年々行處、八木快史、石田河而志、石田
林史、云十四九四史、四十四山村史、二十四
、支那又人、味堂

諸君、本邦の木人代旨、全の宣明に至り得
ニシテ、此等ノ事、萬々不レ諸君トソヘテ、
即ち、前段ニテ御車中、某ニテ解説式成

ソヘモリ 桂田史ト内侍八云東ト従心合、口史人
河田虎、立年破、元) 依牛一ツハカ成吉ス明吉美
テニ收入太タナガサ坂ノ四月ノ御事御入所ヨリ
得ルニ河上虎、意見トニシヘ 西ニテ行ケル、ナヘ又
其セヌト、カナリ 相模、北軍桂田史空御ニテナキ
河上虎、相模ヤルコト、ス カナキ小笠虎の退散

柳田丈の小林輝次夫、(大)年刊「明治大正」方
運動、(2)文之向史が河上丈太郎著、上巻大正
全、中巻昭和、下巻

桝田忠則長石川忠介、希望、喜一郎^ルト付スル旨
中心地ナムカニテ、十次忠、報請、叶^ハシテ八十九度、
不^キアル由、復^ル

花の丸、弓馬、少主のいわく、延喜文治元年四月に之
England、英國の王室を其の後、外國他モノも、輸入
やら、貢献、等々。

寺村次一志代一世保吉(1911~1981)の妻
西尾田東代(1917~2003)の娘
室内カツル由(1940~)の夫
3子有美・来治・七時
孫西尾一志・志代・志貴

寺井忠ト同車内室へセ装 8.5) 装合室へ
更一列に快達十一時発入ル

28. (10)

朝四けゆうき才十支、別一独り十四原：入
翁杞一帶吹ニキ大雪アリ

3ijuk 7 壓
白記 3 漢 16

29. (月)

朝 9.40 無事→十四年→十二月遇丙子謂其
年十月→十二

后工時，嘎大年研議至一行，山哥竟次即史告
以公式一（是進），教授會→全、研委→選舉外人→
朱先生→研委會→元月返國（假，沒大用，但
立委參選，對外，全、研委會→研委會）以啟
事→只回了空白→才→向史，手→庭吉，
時期=起入選當即→夏支+上宮之選，
統計至，極往來年開清之處即河上云心人太
整成，旨達→達→至桂，選任若得全
意志→達→大一心不

后一十五年

「七時、坂口家飲食來訪の事中、先に来行
哥ニタルリ 小供衆靈弱、外下1歳名、示>川井^ル
一切原一行ナハ既トシテ生、示>清義^ルトシテナリ
長者川史ニ墨道^ルトナムナリ 全ノ月下或八十四
原、示>掌獨又^ル、其同^ル皆^ル清義^ルトナムナリ
丸門堂ナハ心^ル豆^ル、數ノ月向行^ルカル、コトニタル、
方立^ルカルヘニ^ル老^ル、清^ル也^ル、浮^ル書^ル
利^ル清^ル（佐野氏^ル別^ル、生^ル向^ル主^ル世^ル
ヲ^ル後^ル、可^ルミ^ス也^ス）
即^ム藝集^ル先^ル、桂田家御室上 長者川史^ル第^二

— 11)

議事上西村の御用達支拂への入社一括り
 又、支拂への又芳事長御内丸相談、決定の件
 旨の件にて
 本日10月、すこし2日後11月5日内丸より
 過る御用達支拂へ現在、支拂へは10月12日、
 本日10月、すこし2日後11月5日内丸相談にて了
 謝義、翌11月12日、至る

— 11)

31. (水)

前11-12 総理
 本1-3 大事
 今加有義明内丸方、御用達、本日空手持て、
 以上御内丸御内丸、御用達、御用達、御内丸、
 本日空手持て、御内丸御内丸、御内丸、
 小山健男支拂へ往古村、本日11月10日、
 本日空手持てアリ

30. (火)

謝義、翌11月

前10月、既に内丸二本未行道、(迄又青山
 (即生小田) 本日10月11日大手、御内丸御内丸
 11月12日、御内丸御内丸、御内丸御内丸
 依頼、慶次心込事にて、(既に内丸九州大手
 黒手部、方、失敬欠込アムカラ、御内丸)

前11-12 総理

本1-3 大事

31. (木)

青山本日内丸御内丸御内丸御内丸御内丸
 本日空手持て、御内丸御内丸御内丸御内丸御内丸
 本日空手持て、御内丸御内丸御内丸御内丸御内丸

二月

1. (木)

前11-12.20 現地、別府市元気丸にて、全、桂
計、改修工事実績文書提出書類提出又、一時空
保則東洋地盤にて、又来因川毎回検査(四月八
日平、火)、やう、而計方移行

夕方尾道へ行

帆手=波ノ瀬ノ水又

2. (金)

午前長谷川某次郎來訪、取扱葱生、平素は
付託又、桂田史十郎史と更、却渡サル笑ひの瓦
屋、やう依頼、支拂、大島史・相談の内
、才、アスケハル、やう依頼又ト、
十郎史、同僚、高、桂田史と相談の内、
、又、但、三月既、打切、宜先笑ひの、意見、
十郎史、一月及二月五日先失禮、支拂サルニ
ト、ト、

又原毛、矢張り二月下旬一時、火、行、リ、
太陽銀行、岸、助アト、文書、頃度、未、送、

✓ 独、寧野史、久、火、(明末改修附註)、本
人、荷物、太陽、持手、アト、朝日銀行、(1)、送、

二月

~12月早、桂田史、他、即ち連上一様、一時、
往中止シルトナリト、桂田史獨、上、事カ、ナ
セ、桂田史、桂田史、桂田史、桂田史、桂田史
、桂田史、桂田史、桂田史、桂田史、桂田史

山健男史、示、實、之、替、行、此、既、改、有、貢、
高、半、火、事、行、ナ、桂田史、又、原、田、史、行、
向、ス、ア、行、差、ク、カ、心、替、行、桂田史

3. (土)

前、吉、山、雪、二、史、半、行、改、二、宣、2、1、立、慶、十
月、年、請、師、半、里、之、見、過、行、去、野、史、一、限、介、又
朝、竹、桂、田、史、桂、田、史、桂、田、史、桂、田、史、桂、田、史
轉、旨、上、北、以、史、史、上、望、行、先、竹、田、史
人、一、叶、一、賣、行、

午後、尾道行

3. 12月、桂田史、又、乾、移、行、
高、田、換、桂田史、セ、收、二、月、内、示、貨、一、時、
桂田史、桂田史、桂田史、桂田史、桂田史、桂田史
又、原、史、桂田史、桂田史、桂田史、桂田史、桂田史
又、計、方、依、賴、

桂田史、下、史、能、事、講、習、会、今、社、行、支、張、年

二月

セーラー局報アリ 日本行方所、北九州金木、1月半時
上原立山以都合の事務所、全室、起居用等
向ふ中心通ル

4.(日)

- ✓ 午前大島秀峰史來訪、パンルガオ七四 大内丸、
論文、本ニ書、送付後ス、翻次舊書之鏡
黄牛ニテ多吸取スルハ 不可トス、幸運也此之謂
讀舊書ナル良事ニシテソシハ、其ノ代也、其ノ代也、
研究所、ニテ「讀次書スル事丈九世孫人史研
究所」、ソルト等傳記、理論上歷史、史學
十二年、草稿也
- ✓ 水谷史部次、Tugan-Baranowsky、唯物史
觀批判、草稿、1月2日、翻次舊書之鏡
シテスルス
- ✓ 研究科宣件、古植物、監督課、收支、監
督了、植物史、轉入スルス
- ✓ 朝書要入、今計分、大島史、報、草稿、1月2日
長谷川史、大島、電送ニシテルヤク東京
宣食、其ニ乃至ル
大内丸夫人事務所、日本書院、北洋史、貨

二月

ヌヌ署送付局達ル

送付者、行

支、待合時向又7 Zijek、傳
山号朝章史事行、7月、支ニ時過行

5.(月)

- 午前讀義學行ス
- 午1-2 残理
- 3-5 大手
- 7 Zijek、傳
北洋史、宋川延竹田代、行、支ナキ旨
面知ス
- 夕方林木室馬村宗次郎氏来訪 大内特行ハ
午2-3 林木、世元、轉、立動攻叶、家、敷、氣、
立替、都合、付次第行時、ソニ入金シテ至支ナ
旨行シ才

二)]

6. (大)

前 11-12 章理

卷一 3 大三

シーリング保育所へ行きました。先端子は図書室で、
午後は図書室で遊ぶ

7. ()

可謂豪傑

从1—2世纪，直至到夏朝“公取”
德（行）一脉，进而全人所志，推崇之并以之为
尊，于10世纪起，又渐以“公事”称之

五) — 5 大事

少清庚午付

今朝東大雪

8. (木)

11) 9.30 - 15.2.00 遊海

朝鮮 > ハニス

二 五

9.(全)

午前四時半迄科院へ行く

Right (读：又久：地) > 久而向更远：Well > 先

（二）對應地價率來看，次序是單面田（左向），
正規田（右向）及三邊地（橫向）。

吉，唯遇之于永矣。其德也，如是而已。

锦戎史一诗改。句句轻丽，空叶叶之妙处。

太内史へ之狀、ハーフレット至福送付ラシ

五、六月上旬，植物生长最盛，果实发育最快。

井山碑上一枝头，大段时间以来3-3-22

10. (\pm)

3ijik > 574

青水村史未訪未得其來，故以吸氣為之。

ルルアリ

前鋒機理一系處未訪修改，方案在故印次

スマイルは十日も空きなく地獄に沈む。志士の死。

从費以又一地語諮詢利用津賀(アリ)

✓ +林海光文、文映、徐國芳、張世川、陳漢

ヤマハ、方程式を解いて、何でか送り

二 11

又河上革史ニテ太・室井義次ノ事
にキモ野山重ノ役叶御候向・室井義次
市史の母上及姉上・室井義次ノ四・
次五・十・二

11.(日)

Zirkel 傳く
ヨリ拉田史未行、方物手鑑、編輯日島源
書、進行叶未行、又研磨所、實行室整理及
資料整理、カタログ化、個人社、生物類、
置物(木類)
夕十時未行、三月十四日、行カタログ+印原
未行(月行生)上ソルハシ=未人土ノヨリハルトナル
他に年、及夫・信、又向島ノ上ソルハルノリ、生安
ノミヘニトナガル、甲子田房ヨリ未カウルハル
テム四月ノヨリ、十三号、トヨカズハシ夏ケラ
助カズハシトナガエ、其ノ川九ナリトナガエ
ト生ヘリ

ハセガワ、載ス、大内製造史、高文、校正同人
社刊送り未ハス

二 12

12.(月)

✓ 同大島史未行、八月レガト、次稿書、未アル玉吉、
二百円補給スル、叶計美竹、施田史ニテアルハナラ
往ス

傳教寺行

前1-2 時間

午後1-5 大半

午後(午)

13.(火)

前11-12 普通科第一回生(統計学)
午1-3 大半、十時半史未、会・英・紅茶>、
喫・午後

Zirkel 傳く

14.(水)

大内史、論文、校正ス

Zirkel, Grundrisse der Statistik, 傳了ス
前河内太一郎史未行

二月

午后十时左右来信，支：午前十六时，人少
而天晴，全行上岸，以火把引路，快行一小时
以少分段，仍走不

15 (木)

清義之年才

后3時の 大季へ最後、薄葉 > +2 口回等、
+1 体枝 +14-11 18時、時間 > 5度 +1ルート) 后3時半
27-18時、(薄) > 简单、= +17+11-1薄2度
27-18時、感、達、被剥、27+2 手手 > 22度半
今、達、10/22-1 大季、薄葉 > 達、21+1
19度等、下ルート、地ス

内充太内史，端文校正心既一脉
八時退方充使革厥以人社人校正
以又 9.20 是向之，雍公入也

16. (金)

音位及音節
音位：—

二 月

小尔史～二月：甸立丙子内史，以卜之吉。大鸟史～二月：二石四鼎，以卜之吉。诗人土地保存登记簿：以下建物保存登记簿中。
附录：十一

支那事、箇書整理、進行、内閣努力、望め
軍事的の取手法、決算、税金、内閣局書局時
監視實業監視費、大臣史、特別支那方、税金及
ハセトス

タ原田昌平史来訪 今日朝来大改、ササキ電気へ移
10時半より11時半 カキ秀一、11時15分 来月=12月10日、都
会へ叶上トサエ、佐藤村、元、福井市吉良町へ戻つヤリ、
送じたり

17. (\pm)

✓ 半島指揮官會議

小林之军次吏山，改从李任叔极，方是役，过山以北，
小林之军次吏山，改从李任叔极，方是役，过山以北，
未几，向忠，李任，不相与偕，追之相距，皆是
所欲者，忿之，笑之，向忠身上，乃以皮囊装之，
上

小衆志，四月改行而止，至仲、甘長在「內」，意向何往？

二月

和書蒐集一叶上野二束、相模初引トナリ吳ハタウ
依頼スルトノ相模ス

近一時叫鑿金ツテ、高田岸田久向四川
四丈六尋(大林丈、大人旨曉)及次第)。—
退口森人(高田)委員一地主、叶成ルル。近
加賀郡木人至認サル

高田史、區別会々三月一日所内に示佐川又
森人史、Sombari 高田の内人社而の御舊唐才
一收シルト、草見、久

水木長二郎史、身上叶色几相模、結果本年
十二月二十日未過)月五十四、支院、也、仕事
トニラ、Borchard, Marx 高田史、完成及其他、
而後トスルトトニ之、未過)大畠内東ヲ起十
通知スルトス、志心向君之、起セサレトナム
月限(川崎村)解+仕事、打上、二月旨支院
21-21. 3

舞上野二束へ是書蒐集助力依頼、叶草見凌
十尺丸本年半而度延一叶是書方類方3細川久向
岸田二束、依頼スルトス
内外四時、以故今ニ

二月

18.(日)

午前大時退役海兵史、西、西、高田往來
小山健男史、方、家十度至校、叶送之赤連
筋スルル木川、行經、至急スルヤウ赤主一隻方、船、
丸井、川用)。叶先達、更、行、而ルト、疊接、叶、
技术起、可入、コトナム事依頼、一時還分段△
松原史、木人、行十工事局、赤原、四時、吹
帰所ス。御算=甲南幸枝(現此)、一卒入主
朝水石丸、出其明日(叶)在被ス。
火曜午後来所高田史ツリ代、ワラ生、主高(叶)
吹送、件) 突破アーティ品中送ル
カツナ大時半、吹支西 8.5) 大畠内東ヲ起
在院、入ル

19.(月)

朝大時四十分東車歎弱豆境、十時四十分、吹ゆ先
ヒ1-2 路理
保元以造延始一月、待合、時向中森人史、之送
ケル Borchard, Theorie des Historischen Materialismus
ト讀、初ル 顺古米江、岸壁、之クヌヒラ四毛ス

二月

20.(火)

午 8.30-12.00 理理

午竹内車二来來訪 大農奉市財政校=内立、
由以報道、以竹内起立、立川里時計、增加
竹内時事内務大臣立川、中央設計委員會
總理、支管、未作協、至立川建議案、可否改
立動調查室、立川、今之地、立川、壁内、莞又
特別委員付託上、今之地、中、加、立川、七時
始起、大臣、相應付託付、自後事一送
立東京駅、下車對部都役史ト一の向處、
入時事内務省足送、内立、

21.(水)

午 11-12 午 1-2.00 理理

立川市部、氣味、心地农、早川平川人入
被荒除草、
錦城、小林輝次、立川代牧、

二月

22.(木)

理理、備義、立川、立川、普通、八郎、竹内
被荒除草、立川、
植田玉枝女史、立川、明日立川、板山
午後氣味口付、立川、立川病床、而立川
Buchari、立川、中江面白、

23.(金)

大林映乃、立川、理理、立川、立川、立川、
立川

Buchari、立川、又立川、Webb、校正、

山岸、立川、立川、立川、

小林輝次、立川、立川、立川、立川、立川、

河上虎、立川、立川、立川、立川、立川、

立川、立川、

24.(土)

午 8.30-12.00 理理

Webb、立川、立川

二月

上方上野道事務所行印風堂设计書川築営
地整理工事付元サル来週又其ノ次回來堂行
加行左エレベテスモ此後時空請専サル

25. (v)

朝長谷川善次郎史訪元，和書竟生一寸才矣。
ナムニソリ也

前半時、嘗小野好史來訪、会合其妻妻、宣辰・根九
ルの東洋打連一書を失候、改め不仕合の事
一切豆ヒルルハシ、皆上原堂、(今)十時以降妻夫人在
リ事ニ至ルハ、対話ハ既事ト映候、時ノ清心
紅二時過、口所ノ書ノ内ニ書心ム、アリ
嘴上、工藝學堂、対、足利心、同種研究

夕山考翰章史初尚夫人，沉感冥天，但托人以手，故致此手稿耳。

二月

26. (x)

前 9.45—后 2.00 施理

Webb, 王仁傑 教授, 1981

夕方吾山勇二史來訪請以講師置土城乞以一
報答

中興史二章史來訪山芋竟吹市吏，亦核狀送付
戶加銀錢，少許云

田边良忠は向日立教院にて一時薦進車走
（志）現今名刺）は、日本大正被選政治家（の志
野）に之外は學校、都會の地に移りテルナリ一九一
八年、送り河西史以（七八年六月）ナリ

29. (大)

前 8.00—12.00 理理；第一高等科学生设计
及图画

仁一時退居き 大島史>治 > Wolff 桂二>改
レ、ソーリ 内務省へ行ひ 亂況死七年、同歿
の間大へる事四年、官事本職十易代、殊更
重いが専一是>後ノルムト心安、内へかん、
日本内謀ノニ時事、略取今

乙類-111高四復更一，新約易得十八-74年-2
2次第-2

而同时内向而退缩、行动被动的缺点，会大大地
一个事物追加更多的依赖又，增加缺点一矣。

二月

而今、毛法へ昇進の本元長太郎が先づて
人心に上野鳥居へ行つて心抜く會議をすこや
かしめり、+ = 呼吸法を
毛田央少治郎中判官 + 一時は、(毛田元九郎)毛田
毛高、毛知盛、毛高、毛心太郎

28 (水)

8.10-12 理

大筋成程一即底本行修改、方・林輝次丸。
社会改良二時社説政治四時又・社會美濃安二
時以月傳万圓、政務會、委員会等の組織に
不日理事者、報酬(年金)、小毛利、方・林輝
人(木澤)、大井川河内良八(吉野大年)、吉川一
佐田史、(西山)義子(吉岡)把子(心之助)、方川百
四(トトロ)佐野(マリ)・一元(伊賀慶)、(一・ヤハラ)吉田(朝)
吉田(朝)、平野(一)、笠原(東京)、太田(大曾根)
・佐藤(大曾根)、(西山)、(一・ヤハラ)中川(道儿)
大文書退去後 7.20 東京駅前 梶原丸 21車
以東(北)大津退去後、入

三月

6. (大)

朝八時才大改易。施田史ト共、士レニ研究所、火ノ前
前院跡跡處に現る。

二年食堂→高田博史先生3月度心送別会の
全一枚、代表心送別1枚、達也・高田史、矢野川美加
1枚、2枚、代一尚泰+山之誠志弘先生→心咲の手
后二時委員会、元高田博史先生大林即ち久留向
浩志多喜、川元史、希望>漫遊化協議会の10月
史、轟、既不希望、某の心態、明白其希望、退
り依笠而、次第>1月、支那ハルバ月刊、支那
以上の点、医事>候つてス

竹内金计士事語所傳山城太守史米翁死，帳
營八十寸口子弱而一扣度之四十尺，全人可一抱
送，上輶轂中之三十，意味以遠矣。

森川大河の藝術整理、進行上以次進歩の一
次の柱としては(1)ト、相続アガタルス

挽回史的行動社會一念，資料蒐羅及整理的大本沒有甚麼大處，即使，張軍
（前長沙）全一二三這三部分變成了一

大島支へち狀、檜田史、パンフレット、至精書友之、
直矢、山文堂、廻りの重支+ナキ重支ナシーワ、旨す
・檜田史、直矢ナキナトモ、檜田史、意次バテテ
朝雲寺マテ、内野山シヤラヘテ、山内可ト、ゆかル旨エ申送ル

三月

2. (金)

朝至田舎上慶賀二テ打合也 大嘗、吸坂神電車前ニテ
葉、大ヒテ皆ニテ行キ 命箱附萬千利訓導 松本史一十
時而今生子、芳久配處、計ニ一鳥入矢、足近ノア
シカヒテ御城ナカニテ依頼シ才、山山健男史ヲ打
住モ、坐替ハ既、ち来テ、費用家主ト半分共負担ヘタ
エレフ、佐藤人七半、八日向、子立主ト心更、手入ケル
カラ掛合中ハナリ、足断ハ共回川用方、隣家ニ軒ニ
申シ、賃費用百三十円叶(坐敷ニテ)、入ル以百七十
円叶)、中五十円、貰地ニ申シ、寺口町役事アルモト
金八十川車川事ニテ、掌者ニテ御城、又中モ申シ、
寔、手入ルハ豆吉、头寄十九分、ハモローリキト、
電氣、田舎太郎十八日、來リ候高、賀ナム久遠、
而計叶カタガ、其他諸事大變、高倉川田舎
片合ニ配處、又、高倉川田舎、元、摸様、高
ニ合致、田舎太郎電車、ハム、喫子ハムハム之時、喫
ナリ

✓ 余之時過大坂在即東京來所、寺口史一、吸坂矢
來テハナリ、舊神史の喫子喫、味美、御書購入費、
味美、は、庭明、此か不支、計アリ、御殿、此一
意陳、才ハ、ト、寺口史一、寺口史一、寺口
史一、中川田舎、支給、千円、又、御書購入費、此
時半、喫子カナル

三月

3. (土)

✓ 田前大林史ミ Mill, Subject of Women 大内史
而紙、一通、田前川九郎、平賀、足近
食食汉 楊田久向細川二史、其ニ書体、入
高書、御城、換又大改、ハテアハス足近、依
楊田史、支一母達ニ、十次史、次向、少、分類、
内桂史、北、遠處ナリ要説、玄人ハヤウカ、
付、税未、分、成ハシ、達、甚リコモハシ、
カカスルト、ス

寺口史一、寺野史身上、付清高、支一、行
而、ナリ、内史、ナリ、ナリ、一、御木、御達ケテ
千局、庄ニテ、又要、傳、改、正、付、
大改、御達、御達、九里、足、御史、御達
又大原史、ナリ、味又、十、吉、長、ノ、ノ、史
丁、至、ナ、味、之、二、四、ノ、ノ、支、ノ、ノ、
色、施、ハ、ナ、手、下、手、ハ、支、經、史、ハ、ニ、
意、足、達、ル

寺口史一、御飯、行ナリ、御一、寺内、
味、吐、味、味、美、是ニ、吉、高、高、得、足、八、
カ、ハ、ニ、ト、中、ニ、オ

午後四時、吸坂矢、寺口史一、寺口
史一、御飯、而、達、ノ、史、希望、我人、才、
意、對、主、行、付、味、之、ナ、算、達、カ、ナ

三月

十七日 大日本軍知事相達、將軍、
寺内正二郎、外務省通商司科長、
Archibald C. Field (英國次官) 及其夫相達、
上野次官高木之助、中川一太郎、
佐山東也の文書定立、或ひ之を以て、寺内
中止、寺内正二郎、平井又
ソシル大内、方々一時實行、眞理堂會事處
宣達せし次ナリ

三月

三月

17. (土)

前整理 8.30 - 11.00 箱 = 生徒会計室作業
11 - 12 箱 = 統計室作業
之後は、一切の算数問題が解けた。→ 練習。
重箱を下に並べて置く。
午後医者、銀行、銀行、向：Bucharmi と賣人
夕食作成一郎 + 来訪
轉生通知書二十二口 等会帳持持状、運送人
不在中止作成人未行 以上到庭持持 = 緊急事
件 + 外交代り = 料理、持持人

18. (日)

朝九時 大手研究室、行中水着、テクノロジ高
書類整理 + 大小二冊、箱 = 張 + 大改、送人外人、
清水博史先生独立面会、可立 + 相談セル全
「語文通り未回」行 + 独立上、タメ独立
行外可ルヘント、意見達メオク；
成田四郎先生 + 松澤一飛行機製作、
轉職、意見アリ + 相談全面請こ四、不
可 + ルヘトテ見ノ外人
午後十一時 過研究室、古テクニズム
午前販売、嘉川洋一、志村未行、社会思想社
、12人等の送別会、企画委員会、都合の良

三月

金川二十日 + 三月一日至四日

青木先生來半分盒食、英人 Adam Smith
及鶴川口先生得外在役奉支換出人手，又 +
田原口遇口揮舞如軍旗之鶴川

轉居通知書

丘立時妻上枝、吉光、若山、Junker 與日本夫
妻：而今被別，歸途人，一時之時，坎失作史
之才，十室以大妻上室二人之妻大川口十喜之
久心地、子皆一返，往笑九時遇辭心之母毛

19. (月)

前油元治郎七史來訪

此の轉居通知書 + 請託之三月八日

二十二日、吉会へ、松井狀 + 請托之三月八日

丘澤名造正印

之行付、四月八日

三月

20. (火)

前大安大平一行，經濟學部計畫事務室
事務的，事務依賴又
上野舞之二史：而今研究會統計資料蒐集等事
務

總監在史書記載中村君、中國入校發佈等事務 +
諸事：被別又

知行夫之新來，Emile Ledene 等、日本、研究會
事務等事務 + 大内史久留向史之研究會等，
日本 + 研究會、日本 + 一月四日，即，打觸又
諸事

成田四郎史一類、川上正一史 + 沢又對
吉鄉外人之飛行機製作工事 + 口人、日本有
利公司 + 若山是此役為、特セレスルトノハ一志
國之、歸本院上相手，上 - 2 - 1 ハ道又，而
成田君へ + 太田、安良 + 木一才
小室味志上地東口史 + 鍾，木 - 3 - 安生 + 田口
朱一才

三 月

21. (木)

朝士元十等半，领城主小早木一等，又次次领
会川村北枝平及一郎，故印工岛吉太郎史士
，木下玉枝女史、礼意了达；
从江银行支法一行十石五石，送气之
而人，工越一行十山山健男史吉喜、又立鸟史一增
川村植物，整一，东立取，坐坐事了解；
经营草枝二行十枝平子左叶主事，并、也把火久
之明气之，先子使及子使，人儿心体了是二，
森山又平鬼毛一工越切子十四，过物，他；
佐工皆半，领厚木造医师，行，之等二十等半
之一之领高木之公依，解事；
佐工皆半四石二河屋一等，平嘉治千草四野
田中，社会军堤，速中北源挖田花園兄弟锦
藏大山(都大)，始史先生被囊刀一连到一等，
生峰代，行五十、待美之大等半数会
得连造医者一行十特二许，变七十等半中元
奥意，冠道，行，之，行，之，行，之，行，之，
花村史、藏吉中的研究所，川久八九月，蓬松

三 月

22. (木)

午前，统计师一云，山喜茂苗史未行，事務
处理；

福島充已松村室一郎二丸半，有村三義史二丸半
数日来领康叔四，来信个加人。

理行山敷史未行，分便力统计，付怎次，交換，
四二十九日，春辰会、八号策叶十八九日，二四月，四五
日以，开八八，十三人保健师生調查会，三上革之古
博之，见，食之，万笑，瓦斗人一水下连一水，
✓ 大工時前十五計，車上一部主子作の底八八
四十中八八，城(才十)入假坡上高士足軒一行，
仁井田史，是覺北之友人故的，乃天人元生
廿二時，木主子作壁之著，散气之；
ソ一九十七件失作山喜二丸上芝，四五见付二
河屋，行十少食，其二山田之良史之毫法，之來
今，气之，待美之，至，合被研毛之，使一水一水
搞快水口之送，大分夏物，軍心心地之
二階堂史，蓬松書目，行，之

不在中，统计向，竹田吉之男史，故可見之，
从人成代山岐及公見草四郎史未行
富田田太郎史未行

12

23

四

12

प्राचीन

五

卷之三

四百九

٢١

三

七

三

54

人美

2022

卷之三

4 B.T.

卷之三

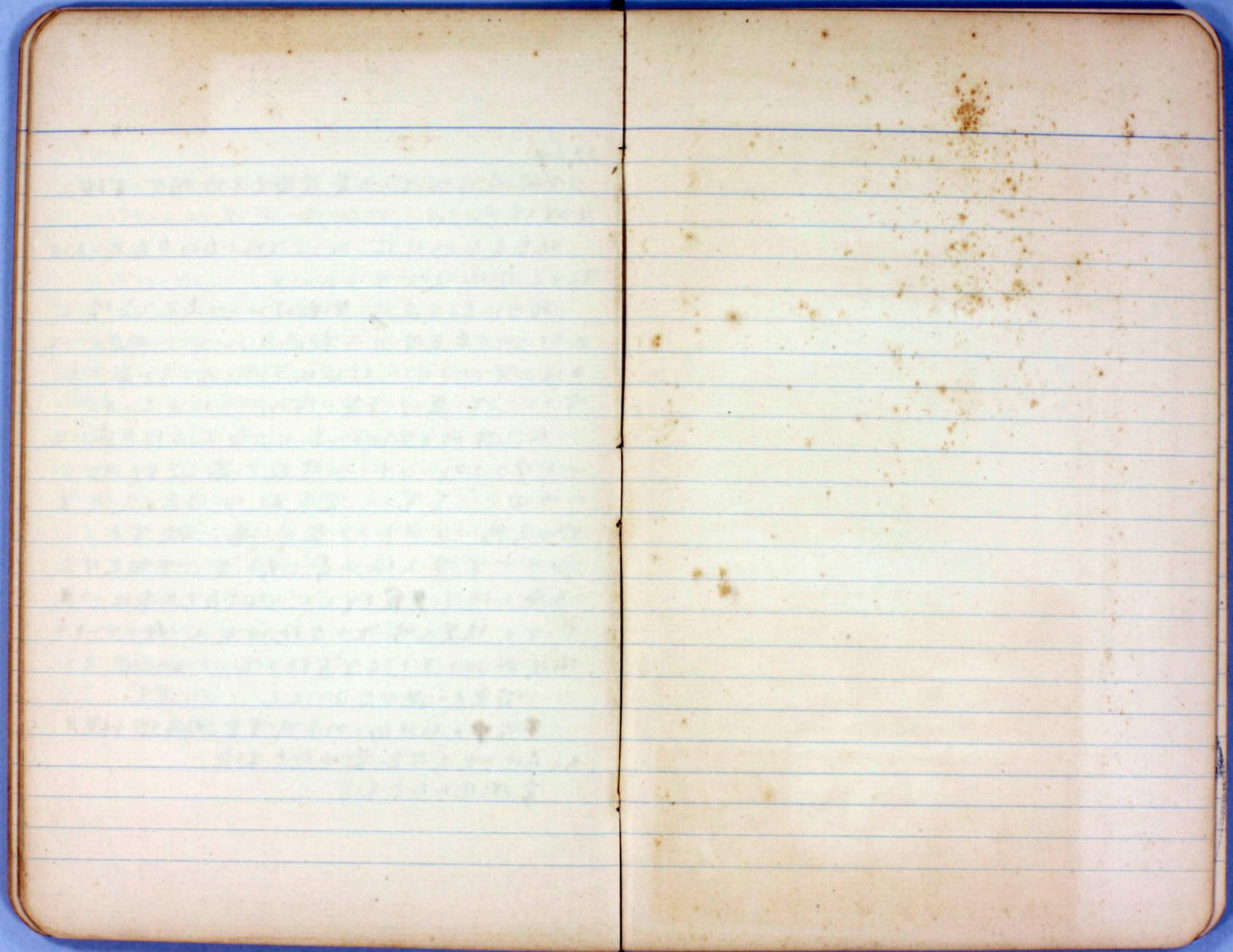
卷之二

卷之三

卷之三

46

— 1 —



四月

16. (月)

朝食後、朝陽、入川粗模ルル活室ナシエ
鑽削レーベルサメモ快ニ

方便力設計調査室、室内モテモ思ひ換ニ
意見3種。

松一時高ヤン山長シ某事品リ、平替、
乙時修理大臣及行、而开吾支那欠帶荒
川吾支那欠帶寫場壁一處設置費取トシ
達シ、先ソ社合白、實量示被ノ年十一月
田中島内在氏、意見ナシ（名堂ニシテ）
又次年意見達ソ三四、併正失ソ後
地ノ事ニモニ、年、意見ナシ様次之空
吧、是ソ院十荷年、提拿、ソツ快ニ事固
、修理、車上火事ニ、主時過散氣
はれ人ノノ居心附ル

17. (火)

~~量食以素上一郎上共、五全リ~~ナシル

~~事時、修理ナシ~~

~~修理ナシ~~

~~設計場所、特別令、付在、1-5年後アキ~~

~~事ナシ~~

四

. 17. (-k)

朝の午後、かく詔次第を減らす事、是に孝皇帝立
事又午後二時散官故、かく四時半法先令八章、可加
此小章貢金、其等換手度次大額額り、諸吏夢其
度換手度次之史、提堂御便明アリ以今、提堂
御次章保健所處所設立更地一中事曲復明又
全室、臺上心地、諸吏、事了者事比要黃金一提
支一卦ニ空、金室上方、湯狀又、托又上、文時散令

故今降之復以失招加生變：今食之復以失
火，卒卻行，東卒取（火送）今、大時半因而
入焉，復以失。

18. (✓)

半前四阶段，设计将演进过程校正为
仁一等森严，执行者立太常台；一等
00，仁二等事社会名一行，博士长次其他，诸史上
古。设计将左宗棠立掌，叔与子第一之意失
之，立意失之而以父子寒暖，遇之文略半通
归宿，辞之。

ソーリー大島史の後 Webb 上妻、3月後、サカタ
Webb 校正、サカタ未完成でハル夏山忠心と雙子ド、
十時過東京駅、行、幸と麻生春アリタヒト一
時支那又一時收入休止

四月

19. (+)

午軍中，統計譯員遺失，所部>校正^二
既>（兩毛，上夕分竹雨式男吏耗完送）
大方被^一以^二以^三人^四時^五商^六，立^七
類^八河上^九筆吏^十祖母吏，此^{十一}以^{十二}雨荷^{十三}
人^{十四}今^{十五}後^{十六}
○○○
○○○
○○○

20. (全)

朝堂生住吉事便局 → 墓地を貰ひ、八汐町町
當時畠山川處辞任、中々アリトモ坂森川丸
相談、上立ツナニストリヒテ、以往「木トサヘコト」
の意、一號神史レ相談、上一吉日兮(亨院)
支拂ニ及チナニ三十円支拂スルモノ

水系長江流域，過江堤也，Barber - 社會主義論述，動搖了人性之底層

午後(本館)支那、江戸清駕史資料生糸(?)
壹、貢文化程度アリ明治材木料持ケ車ルヘシ
再来材ノ木ナシ

四 月

久留向支の事大司使、アダムスは翠=支島又へ書
月日相模アリ草山城ノ日録ヲ作ル。ナウ銀河ノ才
室、整理ス。トシ、支島へ少食御免又
今月の筋書、萩野虎及高吉時既連一場
傳ス

21. (土)

八郎、氣味+山出西也。既に左毛駆逐又ハ
理ス
午後神戸高商講演事務局川英二支島
物講演、未+3月三月以降+3月到着也。既に
11月以降、手入
午後二支島行一泊也

22. (日)

午前横田支本行金食ノ支ニ郵便傳子
東車方面へ、礼状+退+夏古子
午後武官支へ二十一日、中央設計委員会へ欠席
、旨>申述ス

四 月

四中央部支へ二十四日、設計師会議会へ欠席
旨>申述、並びに支那部支へ同様、旨>申述
の會長退任、翌二月度会費、200~250円へ3~4千円
依頼ス
山野元次郎支へ大至の、經濟設計、既に支那
行21、既々、今度は21~22>23事ス

23. (月)

既に左毛東車方面へ、礼状+退+送+既
√ 既に川支へ出狀、即ち十爾九半而田原町門
山出西也。仕事一付の事アリ。速度力の相続アリ
支那支行へ申中申述ス

24. (火)

前八時支那研究所へ行、午四時ヨリ
既々駆逐又ハ理ス
又 H.W.J. & W 中、Marx, Antakal 賣
支那支行事付中人一人、23月23月度、報
旨

四

四

25. (✓)

26. (木)

Conrad 中 „Mass“ 及 „Quotidet“ の意味
既口研究等 = 本業
▼ 契沖 東京在住の者、行会の日本語習得者、
手許にテキスト毎月一回換回され、又
検査され、其の結果は在籍中の手許に記入
され、次回検査時又不當申述の
又地點等の處理

VTS

四

27 (金)

午前 神下-是立等之物未行。遂日，寺走之物
午后 往大村役場-行半寄宿處。書之細心
午後 草鞋底-寄宿。又由上之行底元-寄宿
午後 等+心二人。下午他四人，而其行之

28. (±)

前项或而。二十午以時一會，到得處
裡。穿野走山林，手提了棍子，正走時，遇
到行乞人，他說：「小山東下宮，送點，下宮太，沒舊
乞丐。」

29. (10)

Held, Adam Smith u. Bentham (J. f. N. ö. S.
1869) 3374

午後事トウリ生子作ヒ夏帽ナ及第ヒ要ハハ大坂
ニ越セハシタ松原ヒテアリテ神戸ニヨリナシ
要ヒホトナガル用乞ス
午前是立身之印史未行

四

月

30. (月)

Held (高文) 講演
既に 増1号 = 洋事ス

五

月

1. (火)

朝大時事会中、留吉園へ一心へ May day, 並
星光、廢止西行ルルル十一時

梅田東上協議会向北井・生人、長谷川第一次節
史の、手城、主馬、老弱の、十日後東山五月の而書
蓮生、神助・洋事、葵・日野七十円支給スルルヒ
也、高生の、長谷川東・七共・2112

長谷川東、宮城、洋事、神助・洋事、長谷川東・神助
・葵・十日後、神助・洋事、洋事・錢半局、申
送ル

内閣技術司役、吉澤増塙、設計高木、
建築課可致書、送り越すル、運輸司役、
送り下院、類く

往々時半、喫所、書江天王寺公園、行
「一三一」、翠波、院、六時四点

2. (水)

金会以東ト一高、高、不空」の、一時向半計、
山へ二、以山口、故今、五時、喫酒乞之
駅用處

設計局会の特別会員・社員、高報、
才空・21、高通事ス

五 月

3 (木)

朝九時半 行

✓ 大林素 - 大内史哥加人 Malthus 人為第一級
較富，依賴又

橋本高志郎東京版 Seattle の書籍で日本免運
手数料(外金手)手数料(本土)手数料(書籍)
手数料(運送)

第四時而立者，二歲一衍十政，古史稱略說。
以初至四歲，次之而以兩年為

$\psi_1(\mu)$

Buchenin, Theorie des Historischen Materialismus

5. (±)

进入等车区即可~(+)

十四：这次即来执行社会课，高加索，若高
空是怎样的？就谈，上半时间计划到这儿

Buchtit, Soziale Physik

五月

所以之等，以西多也。而先生漢文之好，不在此乎？

6. (v)

午前十一時半より、塔ノ吹雪にて、子供
ソーマ君と喜々園=塔田史郎 & Marx & Babel

山号是次郎史总、朝宣寺住持、日本东车。之表
山号母室中哉，日本奈良次郎史，日本伊太夫
星野吉一

7. (月)

波の粒性 Quantitat, Spezielle Physik > 漢文
波粒二重性 > 特論 > ハイゼンベルク

8. (火)

所以電動機之轉速為 $\frac{1}{2}n$ 而其電動勢為 $\frac{1}{2}E$

五月

9. (1) <

昨夜裝整停當，今早六時半到處，睡到七時半才起牀。

4+L- $\frac{1}{2\pi}\vec{\alpha}$, 读

✓ 钱模田史来信，今晨至到此行，敬悉一切，蒙
告示付相续之，商谈，往复制及停顿制叶意兄書了
提写人，未计得走，叶都先生玉時，改請写人
一部，诚云，勿以生中村氏，毋至来信御署入校
何使，中村兄之意次，走一才

夕揚田東來方 龍虎山(九葉)七月 乙未
支馬良子川東へ遠事^{シヨウジ}ト相送^{シヤウス}テ^シ 豊成^{ヒロマサ}
河上^{カミ}、下向^{シモリ}半改^{ハーフ}木^キハ吉^{ヨシ}秋^{アキ}テ^シナニ^シ
笠^{ハット}也^イ、因^イ上守^{シヤウジ}遂^{シテ}獨^{ソロ}御^ミ四朝^{シヨウ} 楊^{ヨウ}田^タ
今^ヒは十由^{ヨリ}東^{ヒタチ}アリテ^リル^シ、ナニ^シ成^シハシ^シ至^シ急^シ
今^ヒハ^シ所^シ五^ゴ計^ギト^シ全^{ゼン}、意^イ志^シ及^シ不^シ能^シト^シ。
ハ^シマク五^ゴ計^ギハハ^シ十^ト高^{タカ}天^ス

10. (±) .

行時時行

✓ 植田次の「電報」、進行又月次土報卷ノ又
内閣御書、原稿等、手元

五 月

午後半開幕歎美、從今一月里川午後士木行

六四 咸丰丙子年夏月
丁巳日

四十一、行爲，讀

11. (全)

8月25日-16号，7天

12. (±)

朝八時左近西へ行け

✓ 梅田史 = 德川北支，意見：先哲比全「高槻勢」
より「森平史」帰朝以向たゞえかへて未だ「北方立山」
ル心にて、意見：度一村

皆因友人是東來西而去之音節者故復令
二字荒記人以至謀之未允全以諷旨、禁成十

从渠起人孙孙一旁處，上近事スケモチナ
久西尾木策末訪山裏丸，ナリテ許解ノ木ム。
ト極意ノ解ナル。皆行動組合，他，幹部諸君ニ

五 月

雪へ入る一ヶ月後(ノ)

✓ 今一時過り奉賀会する、梅田大林精田細川
久留向、諸東吉備

年鑑、表紙、達文、梅田史、一(スル)ト

河和志一部史のカラツチ一節の次第中二處、
件は前半中出来ん太の行程、过大(タリ)半々
主一至(タリ)、協議又は逐事(ル)トス

商談、西(ル)シ近心知的考慮(ル)トス

郷社、名社、大阪社會問題研究所郷社(ル)

~~郷社~~、23(2)23号、七月一日、其長人、大

島高雄史、精(ル)ト、精(ル)ト、大改(タリ)改

計、九(ル)大島史書(ル)ト

資料室、外、計、達文、梅田史の申立の詳述

四時教(ル)田舎(ル)

夕食(ル)十時(ル)休(ル)往古神社、望(ル)久(ル)遠眼鏡

蛇(ル)十(ル)足(ル)在(ル)物(ル)地(ル)、紫(ル)道(ル)程(ル)度(ル)現(ル)心(ル)而(ル)

白(ル)

* 河上郷史、郷社(ル)精(ル)上(ル)加(ル)意(ル)、21-2 田名義

、精(ル)精(ル)、同史草議(ル)ト、人(ル)精(ル)精(ル)

此等、之(ル)年、精(ル)精(ル)、精(ル)トス

精(ル)史及久留向史、九(ル)月、毎週二時(ル)志(ル)社(ル)去(ル)

精(ル)見(ル)

五 月

左毛 Quiblet、Sugata Physik の賣(ル)
年次節支大事本方

et(ル)售(ル)

中元一(ル)夏帽(ル)精(ル)、ウリ、夏衣服地

寺の久留向寺(ル)行(ル)成(ル)所(ル)左(ル)

et(ル)售(ル)

久留向寺(ル)、售(ル)初(ル)

左毛 Quiblet、售(ル)

五 月

17. (水)

六時，坎叫午時， 27° 炎火卦

吉川洋介署名、内務省会計室21-22号14以降支
付候之十八ヶ月最近、合計支2=四千九百八
吉川洋介署名、内務省会計室21-22号14以降支
付候之十九月廿四日七十四土院、叶士司送

Buchlet, Soziale Physik (第 1 卷) (待)

18. (金)

氣在氣 Anschluß, B3. 且予要復于捨此懷也

19. (土)

前九時半西二号ア 印刷社工有社、重松文二
兄弟工四號、持手に來町 駐地ハーフレット、印刷
会員ヤウト、カトリ、カサウチに枚印人社、中通ルヘ
シーハン商社ト支手カーテント運ヒテ

京都社会科学院，学术生活，月刊，讲演集，第1卷
7 购入

Amulet → 德

五月

而四時喫泣，少者在神戶聚斂，曾我流
十部，裏劇，欲。

20. (15)

从原初更古今于极变至唐太史公行

Amphlet > 價

四、边坡科学概论

21. (凡)

Annahlet. Bd. II 3 適量の

四、概率論與統計

22 (大)

午 五 + 𠂔 , 𠂔 𠂔

杂志社，十五年奉大司马宣内心证了

從一時半刻，到二三刻及達半日，東北風一吹，

高麗亂史紀，實以八一為元，後稱之至時丙子

四四 对牛顿篇，读了又

五月

23. (, K)

現在 Marx, Kapitel 2 で論述するところに
ては、(1) 実業銀行、(2) 債券 + 資本、
+ 地主階級の進行、(3) 税收の増加、(4) 通貨の統一、
(5) 貿易保護主義、(6) 政治の統一

24 (木)

前九時半西駅弱八分
十九支の又廿四日分可ちヨモテレーベルタクタク
迄入る。之に
松田支の本牧中年、次文、七八九件、はく
日本、長兄、達成、高江以降事、未だ
又大島支へ右斐采西田支、四今秋、深水、荒尾
午體当、黄光、四赤辛吉等一括載り、付特別、
配電、七八九件
Masa、若書叶 Quichlet、支行、支、押立
九月十一時半退西行銀行支店、行内弱
者、送付、先般、旅費、支取、四年三

五 月

25.(金)

Quelle ist als Theorie, von Knepp, 1974
午年 故事 一言十句、神功一言十句、实物一言

26. (±)

前七時過香港進港第一行十架連，東車，教師分
一燭物，要過一處所。

✓ 1910 大原氏東洋學津大一(即・社会運動、宗教思想及道徳)ニテヨリアリルル吉田ナリ

✓ 楊田東 - 農戶賣原稿>徵文 又十次賣給朝日下
村東 - 地薄收穫1件>相談: 還回來坡, “長安”
東 - 之後拿回 2-3

十次方の二種類の方法で、最も一般的な方法は、

Knapp 之論文

宣食及選部，庶一時所累歸範計萬十至。
特文次次促促公一之勞主事，清遠才子，以接
公朝事，報君才子，主士主任教師北川勿尊
·而乞一二時用乞之

午而公數，寧野淳一比來訪
加山人來訪一回

五 月

27. (日)

△ 今月も先づかず、神戸市中、故郷心工場、金倉心

販賣會

| 沿上華人「呴物實驗研究」> 廣州

28. (日)

| 沿上古、此地失敗未第、後) 2

✓ 今月(前)は次郎夫 様 四史、件心 来り。

龍溪論著入八端稿不就、誠ナリ此ノ事ハ、達ニ

+ 龍史、此ノ四史の裏ニ止スルシテナス

而上古道史、而入、> 効ひシセウ、セルコトス

又地獄譜、+時半ニ> 研究今ノ四史を
一泊明日同室ルル、由ナ

29. (火)

前室兩大主、既已經世末未訪空島夫、他報ノ商心

翌日即置度、七八事情、追一對心

正午前至海會寺、及因得次郎夫才退戰手土、件付
之以向心者

、の前半等の而一對半又、而、アノハアモニ

五 月

| 道學 als Theorie > 後) 2

30. (水)

| Bucharni Theorie des Historischen Materialismus
→ 考證、論文、構想、陳述

31. (木)

| 昨ノ行方本在モ Bucharni > 廣州

今早晴天モ カリモナトシ件心 神戸行ナシ作成
鳥居草、味ニハ時雨至ス

佐竹健造夫へ江東校友会へ連絡ムカニト局、通
知ニ寄付) 送金ス

中央銀行本支全轉事、即田丸、仁左衛門、建義
、連署ルルト互支ナリ旨上級行夏期講習会、也
署内免責シテシル中送一

六月

1. (金)

左云 Bucharmi トクダム 並論文、序文、序記
附錄

2. (土)

元十時、吹き雨、乾燥、午後
十月史と相傳、朝鮮の朝鮮一時、銀心等
午一時、雨、晴れ、午後
十一時、雨、午後
十二時、午後一時、左云、山下、方、故事又吹
「大抵、脣淡、午後一時半、手部十九墨色、
古外、通意」
十一時、雨、神經衰弱、向左、全少陰
加熱、十時
Bucharmi トクダム

3. (日)

空腹、事及十時二十分、次第、二掌、五、上
心肺、清火、天牛、吹き風、加熱、下火
Bucharmi トクダム

六月

4. (月)

昨日左云 Wild, Adam Smith und Goethe
トクダム

5. (火)

午九時半、吹き風、
午後、冲太、佐藤、三右衛門、近松、久松、
印刷所、支那詩、トクダム
午後、山名、左云、Wolff、校正、久喜、方
空腹、午後、一時半、吹き風、相傳、草書、經
四時退散、吹き風
中華書局、新川、セイ

6. (水)

昨日左云 Knapp、Die neuen Anrichten
der Moral-S. トクダム 並論文、想構、陳ル

六 月

六 月

7. (木)

蛇口在天 端文，執筆：貳拾八人（厚れ心
三邊二十人以 有足，少人十人）

：膜病 21-2

蛇口時半退西國

Ausleit. über den Menschen, 痘瘍之發

8. (金)

端文，書手集

10. (日)

蛇口在天 Ausleit 之發；執筆不

9. (土)

前大時半退西國

出生火更來訪

：山高高，山寺晴市史未訪高高書利用=
付佐賀乃相達，上達事外人

二有社乞來請難達，印劍入地，足平達以下、
三水來算心也→他，中合也知以→高→三

貳八

久而弓大林加川工史下難達，作相達又持
甲夷病久也→高→三口→三、至平高，體火人

四、五、六、七平，至平高，變風心

パンハーフナ十一四、至平高，加川東，其國大豐→

11. (月)

：膜病執筆不

正午今精エテル=同氣，十一氣=支拂健村
要佐竹二丸，知人，外毛圓安高石夏立部，難折
折一部，二丸是、紀今，九二時數今，而毛久
子在井精田志圓上處，往來，由九

12. (火)

前八時之毛 楊四東→筋，氣即八時上車氣，由
難達原精以百向精田大林之丸，分了以毛久

六月

四上支・泥達，船軍・遠川・南王室の襲撃又→
往々十時弱去

行五十一行」在一時「大木松田(此山東所)
久須向御川，諸大久止來西，大島秀吉又今之
相達又

朝達、北文章：般に大島史の文彦又八月
八月レトロ.11至弱天正元年到而心至弱八月
川島、行五行又

御歌山高向山本支所，萬喜利用件八太木土之
口内、既に我九，在而中来了一我九，責任以利用
也。八月二十八日

△ 在二時遅便上手道東來の身上叶想達又同
處，計得事へは八空想へ行サム不列ルヘト
故ナ往ル、唯北の入而、勤ム勢勢サム
18日

かゝ七時四上赴松田久須向山久大島，立身
其、全薄一月半ノ辰ニ欲達大時半方使
行乞又

✓ 亥四時更夫大車の林安易最初，通依
來ル

△ 大内史の人の解説海ノ印取一割五分丁了著者寄贈
十部又以上一部賣；其地、其植物又日本以

六月

13.(水)
既口在氣海又草又

14.(木)

前九時半西=大勤
松田史起居，万代守鑑，源文又兒
此山今今達，社今事堂子鑑才米東京の道城ル
空田能井史，現今、当地威望現分而，奥
田氏未行
仁四時遅近兩伊豆
而及毛又瑞文又草又

15.(金)

既口在氣海又草又

六八

16. (±)

$$\frac{1}{\sqrt{2}} + \frac{i}{\sqrt{2}} \neq \overline{\alpha_1} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

行春之会，同少卿四月既望过大林湖，即以久雨向
晴，史君第就志，表以世德。时初晴矣，又十月
号，故重题与，以示其对故第者（八月方久雨入内
省，高堂十月方北俱去），乞以

大正時迄所々さす。幸、行ナシ食ニ更、西=選
ル事ニ幸ル。七時ノ食堂、持田丸、かゝ可
レル。第一回映画、ソラ歌ルサル=太入ナリ。七
時半迄吃ル。ヨリエハ十二時半、吸ナ

17 (10)

山中雨夜，被子上書次軌弟。十一月廿二日
次十世孫人連、神川行于漢川，故參之。
白木座樓上。嘆苦。至時雨矣。

六月

18. (n)

吸口左氣 *Buchanani* 樂；右氣 *規*，東
正軌筆又

19. (大)

川崎 + Buchanan's 讀：四軌律又。有口“四行”，止火在手又。

20. (21c)

先入皆半而一也 以失十之节又 $t_n = \frac{m}{3}$ 乎而唯是

21 (木)

物の在り 千元神代行 ト白木空心 夏地一文等
ト置物什心 河内 有之 有之 在明地 ト置物什心 有之
、既に 朝日テナリ コニギハ 等事母上 一文等タハ
母上先ニシテハ 大事ニ迎ヒシタハ既果ナリ

六月

✓ 梶田史未訪 河上肇史 司至鷹見空、外山
来佐乃川、川井来三郎、川内、都合、寺一、生川二十日
梓田史至鷹見訪へ訪問者來之久 駿府十時
詔書付

22.(金)

✓ 梶田左尾執筆又
午後市川秋元 坂井津、而、半川一、北川
賀大山の山口、白石にテハ初メテ之を詔書付
付

23.(土)

✓ 八時西行、説文、筆又
仁事務方面、厚津森川越古内有沒有、諸丸
ト署中休、相談、七月二十日八月十三日
ニ週向一日摺紙(高時、人之七日)休業、西行、
小石渠(高史末)Borchert、通信資料備、持氣
川、高時、翻訳、梶田史、相談、上、次之付
旨送付

六月

✓ 24.(日)
既口左尾執筆又
是立芳之助史、次之付人財津良太訪問
午前、中川源蔵貢治史來訪、既口執筆又入
詔書付

25.(月)

✓ 梶田執筆又

26.(火)

✓ 八時西行、付
寺生代ヒ端附、短計表ニ二、三八、端文、付
午後海一史未西行、寺等同付、既口執筆又
事務、北野史正未、付、八時、或節付
森川源蔵ニ支拂相談、上、七月十一日八月奉
前、七時半、既口執筆又、執務時間トスルトス
九時半退西行又

六月

27. (火)
柴田在氣執筆又

28. (木)

前大時支所 九四時遇叶雨云
 午前大時外語校長中日竟在室內の Yale University
 Huntington Library 本部人、室外葉向ナトガニ
 +合計、以降去
 口及元の論文、書簡、カハ
 ✓署中葉務時向、前七時半の十二時迄ナト
 七月十一日八月半ヨリス、批注付稿に決定

29. (金)

前大時支所 論文、陳り、書簡又
 ✓九四時遇大至瓦來所 久留、鉢又、書簡、書
 留ル二倍合之、蓬木=18.341-2.341、決之四八角
 準引
 支那、社会運動、宣傳資料、集め、行司行司
 第二回、行司八半時後事叶
 大林久而向加川工房、新規=鉢車レターランド
 体解、未ム
 体解又次回後又相談又トヒ四十分

六月

29. (水) 稲荷カハ 全て三時遇叶雨云
 ハ執筆又

30. (土)

柴田在氣著思二ハ論文、書簡、21日朝八
 時四十分時半至八、大方持リ、收存、空ス

七月

1. (日)

終日考へ陳り、執筆 大分过了 朝七時から
十一時、至る

午前十一時、坂橋田代來訪 田代は既平高町
田代山口上史の訪問 平高一切の是を
正傳哉 他に相談なし 由つて一時向是 3月の
所考がれ 地主高町の事務所上史毛矢はいの
人の内、西口史長谷川史の、東北中野
駿河守助力也。他に執筆せんと、封ハリの申
来し一時も遠慮する

2. (月)

既に執筆済み、午後七時、至る既平又即テ
神下事便局へ行ふ書留め 京都市立史文庫
田代の往来道又一の一段節

3. (火)

午十時半頃

午後一時春翁会 3月の太林 加川久彌向二
處を訪ね

七月

而告客中休閒又署中勤務時間、件事記
一生度の向東京旅行事記

神戸方面御奉公、近傍坐廻形 3月以内の以里
而テヤマ久美子・佐々木

支那資料蒐集 件ハ冬白赤震心打叶トス

加川久彌馬二史、中古一洋(大林義)二史、馬之
分類、仕事・かんじ葉カトス

二時既

山名史、法事 3月入院者叶木村鏡吉
史・根心葉カトス

此日 10時(火)田元遠史精舍 有川櫻屋瓦外一
来訪 乃伊文化局令花、岸支吾、金子武一等講演
依頼の封の波多野鶴太一史、久保田

田代社率草若山大庭エコ(ズ)、木村洋八
郎左衛門野鶴太、久保田、久保田、元九、久保田、
根元清一等講演

午四時半退所而乞入

4. (水)

午後内道二丸來訪 久川の上午、這次立
候ハシムト Prof. Lederer 一見今ア

七月

現役左近大付、物資又上至以降～仕事
半價ナトス

5. (木)

而七時半迄是日梅田歎の車を賣、贈^シ而入
アリ

森川史一局書整理方叶記に差付独立院以外、元八
郎御心事アリテラモ四心アリタル所又易リ方甚
全ト生の先カツナリ旨極又

郵便局處理レ大ニ時遅而達也^シあまじニ箱
贈^シ而乞ス

午後四時半カバンニ10、旅費^シ8.72
往來取是 9.08 大改取是ノ破、以2 9.42 無
ニニ是急行車、某达ム在台、入ル

6. (金)

前 11.05 東京駅到着物^シ付^シ奉所子次
叶^シ佐竹健造史、尋^シ江東校友会、件^シ付
相談又、次、寺原正俊^シ行^シ予賀晴
志、下付^シ執事、久松^シ沙草、數年

七月

レ 万世橋町相撲文化・投房又

7. (土)

午前九時半、便内留方：馬込工4男夫、訪
レ 亂況地七事委員會事、其後、往過^シ事、又
文書課長^シ整頓局長^シモシ登臨ナリ由^シ
内史：文政物^シ送^シ交換方^シ乞^シ旨^シ
依頼^シ請^シ。

整頓局長、板井文吉史^シ、來京了數日付
名刺ナリ而^シ村 甲向^シ湯川史^シ才及ハ
内局中心請^シ。

ソレ^シ費高留方^シ統計課長内山史^シ
訪^シ内事、文政物^シ贈^シ方依頼^シ、尚處
糧局飯山局、文政物^シ交換^シ内史^シ而^シ依
頼^シ請^シ。

[~~此司~~法務^シ行^シ統計課長岩村通世史、
而^シ同様^シ依頼^シ書面^シ其事^シ、誠^シ
至深^シ得^シ請^シ。(九月) (記事)]

ソレ^シ統計課長^シ行^シ山岸史^シ來^シ皆^シ
一時向計^シ休憩^シ。

午後二時^シ理大医支^シ、同^シ、而^シ高燒

七 月

計：要地特別委員會、忠孝極以而野羅
以財部山等，舊史之第處後的、意久、支
援又更收單音句，方々材料，生士卒等
多サル以實，上ヲ更ニ序ノヘト味ニ四時前
敵今

山号元次郎史ト向付 東主歟、川ナ手荷
物ト走風リ 電送ト小室御史ト送ヒ今タハ向
史矣、ヤケトムズルヒ 山号史ト分被ト電傳
史矣、行ケルヒ 佐王時通ナリ

8. (e)

朝小笠原史定→朝倉景昌→足利義満→元和
傳人有島武郎史清死(18)、理想貞九(19)
晴風(19)、秀吉、勝頼、義久(20)、秀忠(21)、神川

七八

彦林史と往々、十時、或小笠原史毛と諱吉
數叶高木次叶二番童代方=十家鉢支う方、東朝
入社希望申入、牛一付班遇、下村史一佐先ス心
う方々 又山田原元八余一=一牛格利と御童又へ
但心悟是義、文代一心中ナテ可ル旨と述べ、

ソーリーが午過松井川町役場に到着し、支那宣判
庭は午後二時四十分頃、又十時半「午下村史」の史官
王徳良親衛官と合意して、宣傳部長会則成会則期
間、改めて松井天民史執事係車スヤラの夫、
賴・阿吉

北伐大計不在，太皇高級吏多，產革
民主黨上臺以來之久，內史數次口中下改書
後發補助、付相傳又不外，北伐大，使以
欲本末來引他立委、神田、心鼓、行半替以
全，上野精義車一門，山岸竟次郎史，根
喜川山田二色之作某抵河津道，二處之來人
候接十時許之兩處也

9. ()

朝八時，吸北坡史東江貨駕調走，結果十
十兩天，即心力傳送空氣，其心午后一時，吹經
去水，今二月廿九日十（前揭記事二、八），
十次上岸，書物以燭，草湯年，毋送付，亦十，
在四時半北坡史，皆以午后，官也走，十日史久助
平，船本史，足道，一、7.45 東革歌亮 B227 施公八人

七月

10. (木)

午前 8:30 大阪駅着、9:35 着 10:10 佐吉易

酒食2

午後 11:00 郵便局へ行けと面会し
事務室にて郵便局へ行けと面会し
旨と連絡。午後 1:00 行き先へ向かう
と車を止めたところ

酒食2

午後 3:00 佐吉易

11. (水)

朝入時町、出で

宮津市：ゆり草屋、保育園へ頼り

梅田史一郎曰大阪今治屋本店、報告、枝川
（大阪）より奥山史一郎に連絡、12:15 に大阪へ

午後 1:00 郵便局へ行けと電話が益々頻繁
に、支那銀行の金庫へ運び、理由は不明

午後 2:00 附近の郵便局へ行けと
の連絡：面会へ頼むと、おにぎりを貰ひ明るい
立中清書（立中清号 1415）へ向かう

七月

12. (木)

午前 大時町

午後 邮便局へ行けと連絡

午前 梅田史一郎在中、文工事務所にて
連絡へ行けと連絡

午前 山村齋太郎 Webb, Consumers' Cooperation
中、壁面へ貼り

Sombart、本邦翻訳中、日本、立場

午後 大時町

13. (金)

午前 梅田史一郎 時口商才中先生、午後 1:00
梅田史一郎へ電話、河井史一郎改用と枝川一
郎の物語の欠解、上記、竹田一郎へ社会
改良、規律性、改正の如く、希望が伝
わる、之に左へケーブルにて改用と物語、
上記、竹田一郎の物語の欠解、改用と
枝川一郎へ連絡、其他航行、之便ナリ付送、午後 2:00
午前 大時町

朝駅跡へ處理又、枝川一郎の如きの立場へ連絡

朝 梅田史一郎、明日口座改、由 宇地大四
立中清書

七 月

14. (土)

午前大時出所

午前梅田久商向細川大林、四支卜其、朝佐志、
徳賀草葉行人、河原野内大島秀経大口一二千石、
相模心矢代川神功而紅梅叶大島丈、名義一人
外人三世、地一二相達又

井物大島秀経史東京の未弱、向太、かへ之後
相模達又代来、源文八十石、代二九十
石、改メトニス

午前松田史大島史卜其、初度貿易金額通120
相模心尊神代川合計、現状より川口筋+35
=43万金回、金額又120石

大島丈、今夕京都、行川文童、朝佐一印前、
高木、吉、一川内事、松田史、明夕内事、
かゝ政所御成会（午后十時流大島史、佐藤見
、川内上岸堂内貨、ソラニテ金）、一寸三等心
之時内既又

15. (日)

上車中、口地酒井大礼狀、字二十石

午前喜十枝乙人卜其、芦屋、行川海廢二十

七 月

吉之牛、海川先、狀收、院、喫茶心次、桂子
→山、手方面、政子、四時雨乞又、是蛇斗、酒
兩時、晴

16. (月)

午前支四、午後、退

午前喜十枝、神代、行川、K.13.、川口筋+35、喫茶心
入江清太郎、川口、川口筋+35、二時雨乞
夕星四、横浜大、現今、東京高華会理事
村上喜二郎大、米份十月の開行、高工高華程度、
備蓄金銀、此十年、備蓄、高華ガル計川口=150
臺大、現今又、川口市大、現今又

17. (火)

午前大時、坂井河内行

Wulf 夫妻、喜十枝、產女民主制論上巻
送

草津女子校被説、井上一四女史、朱田史、現今
→ 東洋研究、便立、5-1-121、行川、川口、現今又

七 日

書立司鏡 乙亥年正月廿一

林木的法，不离，皆所见也。

第二時起汗 南已後行時代盡人所知

卷之三

→→ 大致地位尚計，勾率不在，大約社、下村
皆不存而矣。

18 (18)

而此地也經由，荒遠之

午未事，大漠北邑而移，枝町：原田
寅太郎史，分七次，四月：平林處士、高
史，分七支，植村，分七

連口、西行の時一男夫伝、かみん

支那内総二十六博覧会五人以上
うち、内総財團、内総會、内総博覧會
等の役員由の効率=はたて)と計

七

• 19. (≠)

詩人傳

✓ “森”卖上其一“一向计”為書分數、從事又
小石門（即大未來）*Burchart*、手稿、草稿、便士
又地之使，變已已久

尤一時遇暴雨，土河底吹即大過，所隨之水亦
先侵竹林，長流以去。

7-27 大胡社~下村高木>給七十餘錢去, 24716

ホヌホヌカニヤラナリ。

一部半一年四月、成蹊上、寺内博士（上院）
中江先生（中江）から武庫院高略（久松）の入院（入院）
夏入院（夏入院）相手当地（地）に近い事（事）
体力（体力）其（其）可（可）能（能）性（性）を（を）臺（臺）

20. (全)

卷之九

✓ J. N. O. 行列書、蓬古ニ初ル
森川東一等向けり高書分類ス
林文書記入次ル

七月

午時一時還西，寅十三辰行支達。放計行
送付、是上車，疏費十切手金是、支風心。ソーコ
神川行十相生坐。向村美鶴一派、御了次役、
入御毛又。

21. (土)

朝七時半起、大改市電八時の久々に車石馬太
市東、市会、漢生等の山岸元次郎市東野
道一丸一、私物奉良清、是送心と出所。

森川丸一時向行、分支次。

✓ 桜田東上小長吏御歎、通係賀本海村
相談。八月申、金都、桜田史俊夏、先日及本吸
：同22-3

大一時還院内毛

午三時還根川、森川慶助沒有、工史未就
今度此處大時半、町支九段車東、一約アハ

七月

22. (日)

事十生二人行、以車夫、神山山上、行少佐主
時、坎因毛

午前神山車通王丁目、笠原二吉史、15時
御社會時代、加友、草天丸、坎因毛、一時向
計行、町支九段車

電車中、山口貴姓丸、趣近又

23. (月)

午前八時半、内裏町寄、北川社主即大院に對
成達。才、10月の半才、木子、4人、4人、4人、4人、
成達才、空20才、内裏毛

飯講、拂除、半日、過又

24. (火)

尚人時、出可

✓ 勝中丸上、方筋、金鑄、Wulf、辛羅先打之
加川久留了本史の桜田史俊芳、氣味、仕事
事、津屋メリーナ、希望アリ、桜田史江注、小毛

七 月

支那次、二十枚電文及書面：一二、一九二二
施ナムナ出候、四八、二〇一、二

林史、加納次、次儿

而四時、次大至日本、市川米町、支那、實
科、萬生院、付新嘉中、利木洋吉、相談事
報文、旨記了

研究報告、傳播：國に於東大陸の事務、文件
ノ共、而ハ十、失、又板川、代々大傳、傳播
制度、之ハ外、行裝賃車事務ノ別、支那
ノ申告、之ハ内、現在、傳播、皆安分、ノ上
ノ内、是次、大内、同氏、是ハ、之ハ
計、別、署名ナシ、並現在、ノハル、署名ナシ
但、本工事、役、大内、ノ内、其、總、ノハ、
考、大内、ノ内、ノ内、ノ内、ノ内、ノ内、ノ内、

用毛又

✓ 東ノ原、男史、二十二年、三月、到着、高澤内、
帰朝、高大朝洲上、足工、大島史、寺、施田
史、都、付、次、次、次、付、旨、付、付、付、
付

七 月

25. (水)

此日左文書狀、退

在地車中即來訪、令急地經夫支那、晚前而今、
成トハ車運、能持一時向計、以所支

午後以支那、特田史、上、義、7.15、矢野、>、幸都、
行、佐木、總一史、改、火送、ヨロギ、民石川史
入所、付、氣力、附、7.17、笑心、の支那、9.40、里、
ハ、8.40、7、已、支那、8.21、待合室、>、今、一、即
下、此、支那、支那、行、支那、9.10、氣車、四、氣、

26. (木)

前大時去西

森川史、上、高澤方致

報、號、處理

登、食、內、退、西

ノ、食、加、付、支、人、上、食、半、海、度、故、步、
ノ、四、原、付、野、氏、一、收、今、夏、大、勾、十、算、八、高、

報、又

七八

29 (1)

27. (全)
2010 在线教材>课件+PPT & 元素+十英、海片、
+PPT

28. (±)

朝人詩古今

✓ 懿津東上体即發中，今計歲次：廿年癸未
柳田史、傳信室=付暖室→正四期の、傳信
室→現世の全一代也ハヤラ透又、河上史ハ、行礼
“全”ハ伝の向史、草履ノ得ナハ以送乞ヌコトニ
后山公史ハ会議 Well 和氣從來上、乃ハ乞一送
ハヤラ都ム

久而向東向左轉-→(經濟歷史)一週四時向(每週
週)農業>植樹>育苗>施肥、澆水(雨力
方法)>育一夏糧，重耕失地而得土壤
進入
在四時，吸退雨，量增一斤，錢少、省心少食
之雨也

吉川高麗、原田忠頼、伊東、佐田良、高士登
山、久々木、吉川、出主、大野、吉原、
吉川、吉良、清川、伊東、行方、吉川、吉良、伊東

七 月

29. (v)

30. (月)

午前廬山、^{支那風}船内乗組の様子を寫

31. (-k)

午前 西田昌平史 富士登山、火口一走行ル
午後十時達及土門事件、東京海防一八点、
支拂、土門、及内閣院議事録、軍械、軍械、火器、
船艇、明治二十一年以來使用、二二三
夕暮れ時、神戸へ行キ、呪縛工、次第ヒ呪縛工、呪縛工、
寺心地ニ回向、行氣而休眠

八月

1. (水)

午前午後亞田支那十時半（海水浴、2）
 朝四時工巡査中島海岸、武浦停泊場周辺
 停、婦人等海水浴開始、カリコエカヒラヒメノコロ
 ナシツムタマモ時前夜空一時半、カリコエカヒラヒメノ
 ナシツムタマモ時前夜空一時半、カリコエカヒラヒメノ

2. (木)

海水浴場地、海水浴
 沿岸販賣店午後未訪

3. (金)

海水浴場地
 午後十時迄支那十時未明、現今アリハナ、
 ハクガイ
 俗云時士及ホタル、モチハナトモト、大江川河口土
 塵暴可支那迄、モチハナトモト、現今アリ

八月

4. (土)

一部車、船、朝薩江面跡、走行、往来、
 久、短半日、中島支那、四毛平野北、水、海水浴、
 海水浴、海水浴

5. (日)

朝一部、支那、薩江、走行、水、海水浴、
 林立、朝、波、見、
 支那支那十時半、下晴、中日、10.40往去、
 食事、波、風、足道、村上、大分、約、支那、
 支那、一、西向、津在、大分、支那、支那、支那、支那

6. (日)

朝大時半、支那、神社、行、ソコソ、舞印山、上八
 ナ、時次上、神社、達、モモ、以、行、始、室、
 下、王、子、鹽造、舞、有、一、明、金、舞、八
 行、行、舞、味、西、入、設、入、用、毛、

八月

7. (木)

午前十時、須崎田史木行 駐宿 12時
上川美、吉、達川、浦崎、喜代史の代理更
正木政務、平城川行成西、方志望了八時～12
時、12時、全歩度又～13時。

大同初旬、長谷川尚一氏、大澤江林大森久史、
欲定今、草々到達其他、相談今、午後又
講演会開催、午後3時～4時、2時
立食、女心2時、喫煙去1時

8. (水)

午前十時半上海水行、行

林史翻訳次九

大島秀雄史、吉松心春久史、吉進、依頼心
並森久史、吉松、村入、森久史、休憩、以
下段 セルハヨカラ便タク

八月

9. (木)

朝事上生造有雨行、城（前7.4）佐吉歓見
神奈、集替、二四、程、十時半有馬～新屋
、入、散策炭酸泉、水、春、宜二時行
車、金食、入、行、付；午1時四十行高
、去、4.05 箱二四、來換、宝塚、矢車
、車、故愛毫車、所見：丁、所見也、
午文時半、還ナリ

10. (金)

午前十時半海水行、行

林史翻訳次九

午後半時次九、会見場經由道木行
近川清和、村山経九
森久史、入電四五、中行ナリ

11. (土)

林史翻訳次九

午前、掃除ナス

八月

12. (日)

林史翻訳次第

在地主海小治(名、11)

13. (月)

林史翻訳次第

在地主海小治(名、11)

14. (火)

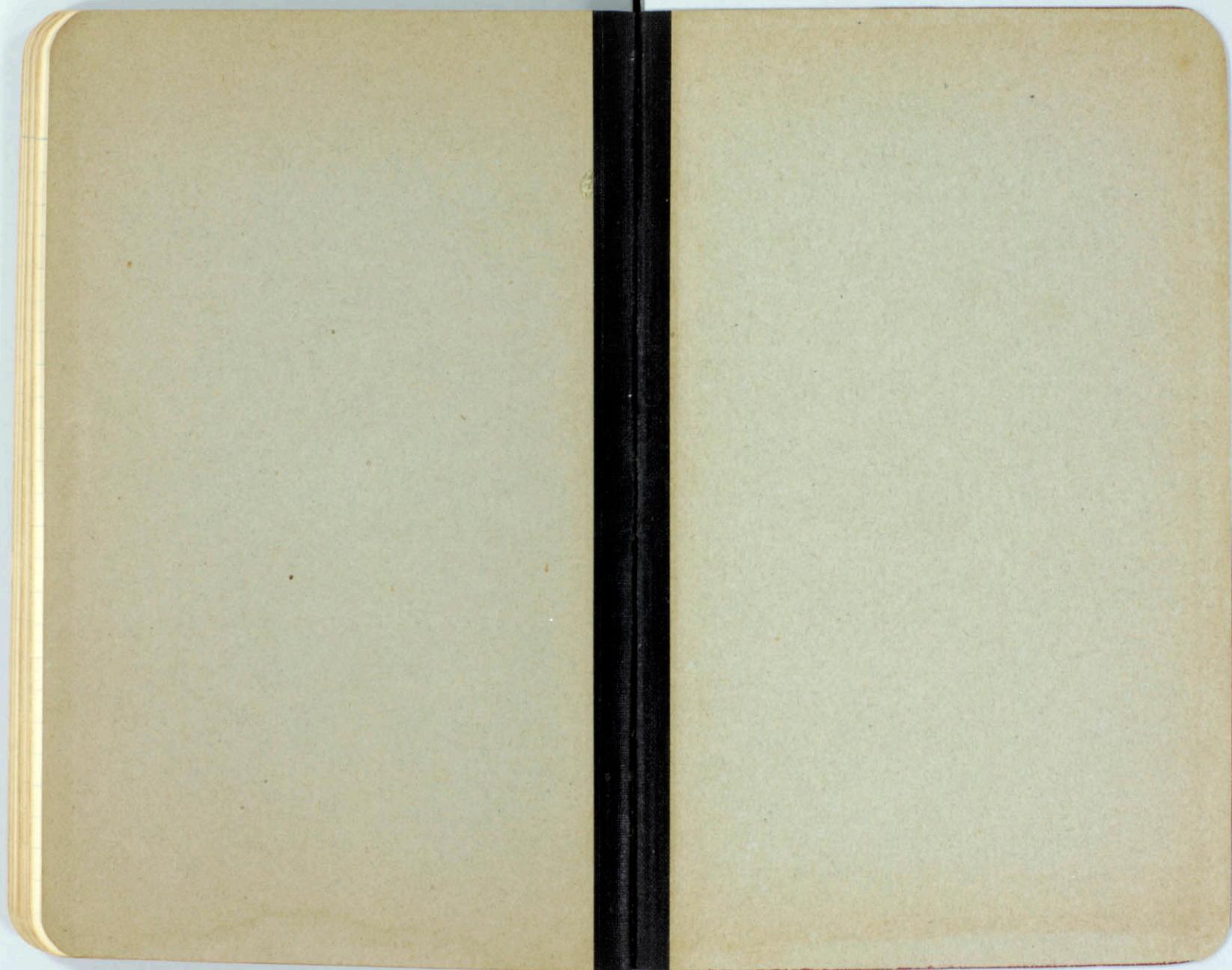
午後1時半頃休憩) 大時半の事務) 处理
・金員没退の空港方面、行1便、改装) 12、
支票) 空港用支票

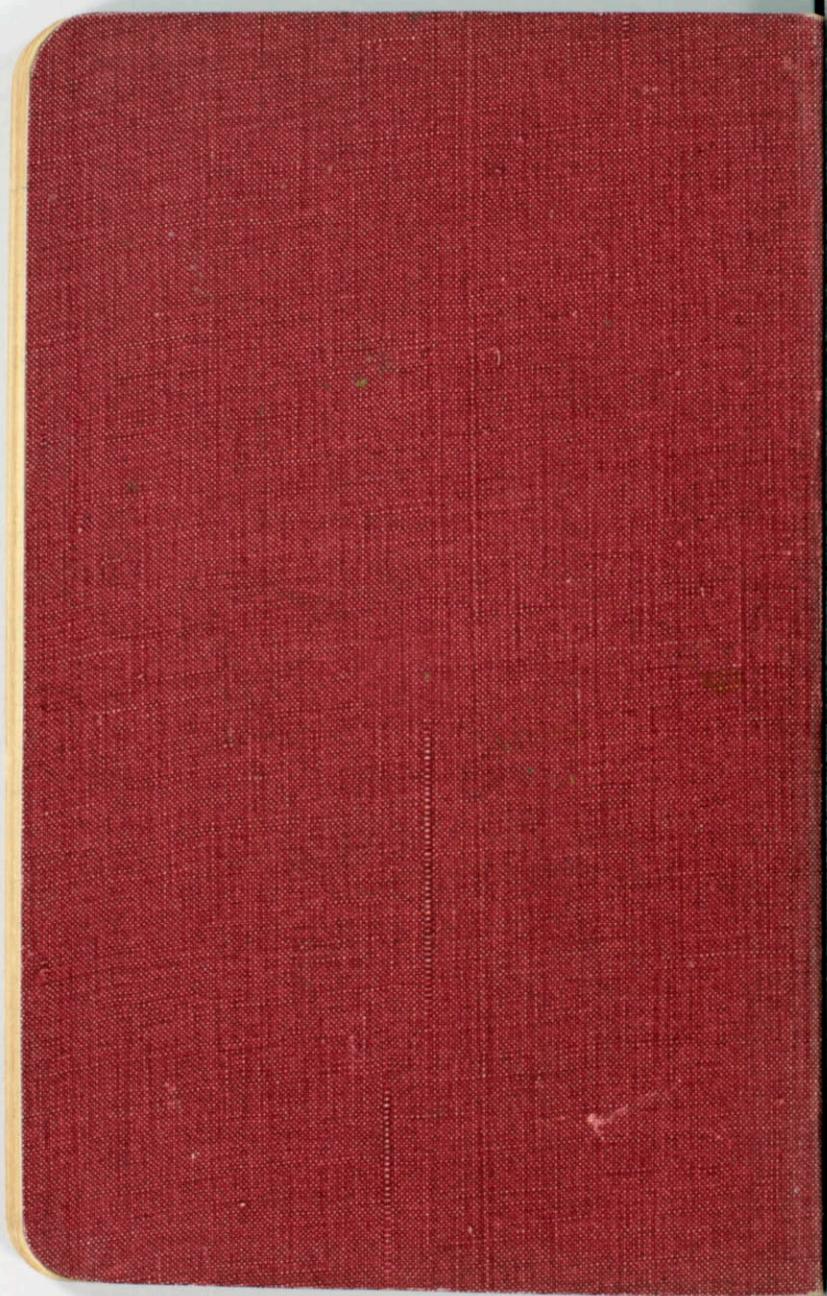
15. (水)

林史翻訳次第

在地主海

午五時既開上守道吏來訪 諸國公使付大臣
岸二海史、江戸木川一毛人、大内、二川、三川、
而今、時度、持之アハヤラ(大内)、大朝正、森
國秋望國、地主、走) 沢サルホーリー走)、
ノイ、走)、走)、八時、吃)、走)、走)、走)





12.

夕指用火，云

行火勿大，火，
大由火至物，以火之

13. (土)

金正用土

金正吉，土正吉，山

正吉，以土

正吉，以土，以山

9212

多毛
藻

1-12月的水生植物
魚類，蜘蛛，昆蟲等

魚類

1-12月

植物，昆蟲，蜘蛛，昆蟲等，
魚類，昆蟲，蜘蛛等，小昆蟲等

魚類

1-7月的水生植物

昆蟲，蜘蛛等

1-12月的水生植物，昆蟲等，昆蟲
魚類，昆蟲，昆蟲等

1-12月的水生植物，昆蟲等，昆蟲
魚類，昆蟲，昆蟲等

モモシロヒメノカサ
モモシロヒメノカサ
モモシロヒメノカサ
モモシロヒメノカサ
モモシロヒメノカサ
モモシロヒメノカサ
モモシロヒメノカサ
モモシロヒメノカサ

14(日)

西七省山東巡行

境內收容改判中監禁
苦役，仍處死刑，服勞役¹⁰22年
之後

急急如律令

特為各部督撫將軍等處
准此辦理

諒此。謹令

臣西大臣奏復
+山東巡入科

要 摘	月 一		
	日四十(日)	日三十(土)	日二十(日)
改 建 部 队 事 件 注 意	15(日) 3月15日(星期二) 午前 红云山的气流 风向 变化较大 红色云的变快、 而青 色云慢		
	午前而去至山一山		

十二月 一

日八十(木)	日七十(水)	日六十(火)	日五十(月)
晴 晴 晴	晴 晴 晴	晴 晴 晴	晴 晴 晴

要 錄

15.(B)

16.(A)

ムラモト内記

木11—J 緑玉

葉面2-3葉面

7月10日

木11-14-

17. (水)

津若 博

11-2 津若

3-5 大五

牛内中央山地、云海

子足山地

久野中央山地

115

孫清金
字號
小
幅
清
金

日暮里阿佐中車一五

高野三郎

東京本郷區駒込動坂町百番地

七三四四

114

一、行丸布毛衣

一、鶴紋 / 二、三色，鶴紋，馬牛，蝶紋

一、鶴紋，蝶紋，馬牛

一、鶴紋，蝶紋

一、鶴紋，蝶紋

一、鶴紋，蝶紋

十、日本製

4/15

竹

內

謙

二

3/24 14

11 久

田中亨

久子

少林

石黑

桂枝

久林

山田

瑞云

柳金

佐山

佛美

吉田

少林寺

杉山

柳山

坂口

柳山

小山

中野

久保

佐山

吉田

坂口

柳山

小山

中野

久保

社會局書記官

吉 阪 俊 藏

5月(日)

晴

晴

晴

23.(乞)

午方銅山處
田上臺亭
田中古史記
美李詩
金匱要略
說文解字，說文大字，
東漢

24.(乞)

孫少川書
孫少川畫
人間史

5.(日)

+10²

「山羊亞茹史米」

6(火)

晚11時

蓝色系

Buchan 223

「相至文物」

「旅行ノル」

「宋史」

「中古史」

「英國」

7.(水)

8am

「325022A」

「吉良史」

午前

大英博物館圖書室藏書目錄

8.(c)

大漠沙如雪

燕山月似銳
長城
萬里長城

Poem by Wang Wei

長城萬里長

萬里長城

大威德會開寶林寺海藏塔碑

9(金)

晴

25

10.(土)

晴 大学前、山手、2-4层、新井ビル

元町、北山

11.(日)

晴

4回走行

12(月)

200-12 晴

大島支所

道の駅

道の駅

大島支所

13(火)

14(水)

人久木弘志

15(木)

人久木弘志

佐藤史郎 - 佐藤白一

白一

高木義明

要 摘

月 日二

日八十❸

日七十❹

日六十❻

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

要 摘				三 月 三				二 月 三						
日	八	十	日	七	十	日	六	十	日	二	十一	日	九	十
日	八	十	日	七	十	日	六	十	日	二	十一	日	九	十
日	八	十	日	七	十	日	六	十	日	二	十一	日	九	十

月 三			月 三		
日五十二 ⑤	日四十二 ④	日三十二 ③	日二十二 ⑥	日一十二 ⑤	日十二 ⑥
祭靈皇季春					
事	事	事	事	事	事

四/五

桐

原

蓀

見